



国臨協新潟地区会会報

# 朱鷺つと

2016年10月発行

第78号

発行者：山崎 正明 (さいがた)  
編集委員：舘野 直道 (新潟)  
：古江 裕志 (西新潟中央)  
：島田 朋幸 (さいがた)



小滝川ヒスイ峡(撮影:さいがた 島田 朋幸)

# 会長挨拶

山崎 正明  
さいがた医療センター

秋冷の候、会員の皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと思います。

今年は例年になく幾つもの台風が上陸し、全国各地に大変な災害を齎しました。皆様のご親族やご親戚、知人等で被災された方々も居られるかと思えます。紙面をお借りして、心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年の定期総会の場で会長の役に就いてから、早や一年が経とうとしています。大任を引き受け、各施設からお預かりした役員をどのように引っ張りながら会務を行ってゆけば良いのか、日常業務を熟しながら頭を悩ます毎日でした。しかし、余計な心配を余所に、良く働いて下さる各役員と会員の皆様のご理解とご協力のお陰で、今のところ無事に計画した行事を終えられそうです。ここに改めて、全ての関係者に感謝申し上げます。

この一年間の締めくくりとして、あとは10月15日(土)の定期総会と研修会を残すのみです。研修会の一つ目に、現役の臨床検査技師でありながら、一方では役者としてご活躍中の『新潟脳外科病院・平田誠市氏』にご講演をお願いしております。近年、ワーク・ライフ・バランスが重要視されています。果たして氏は限られた時間をどの様に使い、また、年齢に打ち克って台詞覚えを行っているのか…。その場でしか聞けない芸能界裏話も出る“かも”知れませんが、非常に興味深いお話が聴けると思えますので、多数ご出席いただければ幸いです。

では当日、さいがた医療センターでお待ちしております！



# 平成27年度(第36回) 国臨協関信支部新潟地区会 定期総会・研修会

日時:平成28年10月15日(土) 13:00～受付  
会場:NHO さいがた医療センター 2階 講堂  
会費:5,500円 ※「割烹 明治庵」での懇親会費

## 来賓

林 亮 臨床検査専門職  
岩崎 康治 関信支部副支部長



13:00 受付開始

13:25 研修会

講演①

講師 医療法人泰庸会新潟脳外科病院  
病理部 主任 平田 誠市 先生

(14:30～14:35休憩 )

14:35 講演②

講師 NHO関東信越グループ医療担当  
臨床検査専門職 林 亮 先生

(15:35～15:45休憩)

15:45 定期総会

16:45 総会終了

17:00 懇親会場へ移動 ※送迎バスまたは自家用車

17:30 「明治庵」にて懇親会開始

19:30 懇親会終了 ※予定



# 懇親会のご案内

会 場：『割烹 明治庵』 上越市大潟区雁子浜323-7  
TEL: 025-534-2156



詳細 <http://www.j-meijian.com/about.html>



- 備 考：定期総会後に店の送迎バスまたは自家用車で移動
- ・ 駐車場 30台分あり
  - ・ 2時間飲み放題コース6,000円(税抜)
- ※自己負担は5,500円をお願いします。

# 第44回関信支部学会地区会ポスター



## 新潟地区会 第44回国臨協関信支部学会



新潟 音頭



平成27年10月24日(土)に西新潟中央病院において、第35回国臨協関信支部新潟地区会定期総会・研修会が開催されました。会員18名が参加し、実習として科臨床検査専門職、岩崎製薬部長、研修会講師としてブルカー・ダルトニクス株式会社の松山由美子先生にご講演を頂きました。  
 総務部からの「伝達事項ながら」に会員の皆様に向けて」と題して、職場の現状や今後の展開、主任登用試験、各種認定資格、臨床検査技師として日々の業務に対する心構えなどについてご講演を頂きました。



### 新潟地区交流会 ～笹団子作り～

平成28年6月18日(土)に新潟地区交流会が、笹団子の老舗「田中製本店」みなと工房で開催され、参加者は会員のご家族も含め計18名と多数の方にご参加頂きました。  
 笹を使って団子を含む作業に手際取ったり、蒸し上がった笹団子のあんこが爆発していたハプニングもありましたが、みなさん笑顔で楽しんでいました。その後は、隣接するビアガーデン「港屋」で新入会員の方々を囲みながらの会を堪能しました。

### さいかた 掬い



重心病棟が新築されました！  
 敷地内に新たに職員用長富アパートが出来ました。

残念ながら入賞できませんでした・・・m(\_ \_)m 来年こそは!!

# 日本臨床検査医学会 学術集会

# 祝！

## 日本臨床検査医学会学会賞優秀論文賞を受賞して

新潟病院 主任 柳田 光利

この度、「臨床病理」63巻12号に掲載された原著論文「Real time PCR法を用いたインフルエンザウイルス網羅的検出法の構築」が日本臨床検査医学会学会賞の優秀論文賞を頂けることとなりました。9月1日(木)～9月4日(日)に神戸国際会議場で行われた第63回日本臨床検査医学会学術集会の総会・授与式にて表彰状と副賞を授与され、身に余る光栄に感じております。

今回の論文は、本学会が主催した「平成24・25年度学術推進プロジェクト研究課題」(研究期間2年間)に採択された研究テーマをまとめたものです。これは【日常検査技術の開発・改善、あるいは問題点の解決に向けての取り組み】における分野において、「Real time PCR法を用いたインフルエンザウイルス網羅的検出法の確立とハイリスク患者および脳症患者を主な対象とした臨床的有用性の検討」という課題が採択され、研究助成金を支給して頂きました。

本研究の契機は、2009-2010シーズンに発生した新型インフルエンザ[現、インフルエンザA(H1N1)pdm09]パンデミックでした。当時不確実な情報が錯綜する中、当院では富沢院長先生指揮のもと「筋ジストロフィー、神経難病、重度心身障害児(者)病棟や小児慢性、Post-NICU病床等のハイリスク患者から、一人の死亡者も出さない」をスローガンに、職員は一丸となって感染防止対策に取り組み、実際にその目標を達成しました。Real time PCR検査法はその一環として導入したものです。

その後、4シーズンの基礎研究や疫学調査等を通じて、偶然にも2つのantigenic drift(抗原連続変異)を発見しました[2012-2013シーズンのA(H3N2)流行株におけるneuraminidase(NA)遺伝子変異および2013-2014シーズンのA(H1N1)pdm09流行株におけるhemagglutinin(HA)遺伝子変異]。その対策を模索する中で、改良型PCR法を構築するとともにmatrix遺伝子(M gene)の有用性を報告するに至りました。

私が本研究で強く認識できたことは、パンデミック以降のインフルエンザウイルスにおいてもantigenic driftは常に繰り返されているということでした。毎年私達は、インフルエンザの流行初期に迅速抗原法陽性検体を初めて目にした時、「例年のインフルエンザか・・・」などと捉えがちです。そして、インフルエンザ感染症を何気なく「いつもの(流行の)出来事」として侮っているのではないのでしょうか？本研究で経験したantigenic driftは、確かに世界的な大流行の原因となるantigenic shift(抗原不連続変異)と発生の機序自体は異なっているかもしれませんが、しかし、いつ何時、何らかのきっかけでantigenic shiftに移行し、私達に襲いかかってくるかもしれないということを今回の新型インフルエンザや過去のスペインかぜ、アジアかぜ等によるA型流行株の変遷は物語っているような気が致します。

私は、身近に経験できたこの「新型インフルエンザ」を教訓として、次に訪れるであろう「大変異」に対して全ての経験を「知識」として備えるべきであると考えています。

最後に、審査にあたり、ご尽力いただきました学会関係者の諸先生方ならびに当院の先生方、検査科のスタッフの皆様に深く感謝申し上げます。

# 今後の学会発表(予定)

- 第5回 日臨技北日本支部医学検査学会  
平成28年10月1日～2日、朱鷺メッセ



日臨技主催 病棟業務ミニシンポジウム

「当院における臨床検査技師の病棟業務への関わり  
～病棟勉強会での看護師への検査説明について～」

さいがた医療センター 山崎 正明

- 第70回 国立病院総合医学会

平成28年11月11日～12日、沖縄コンベンションセンター他

シンポジウム 臨床検査技師の役割と未来

～とどけ、美ら海のちむぐぐる(心)～

「臨床検査部門における職場環境の現状と今後の対応」

さいがた医療センター 平原 博美

## 編集後記

秋の深まりを感じる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？ 美味しい秋の味覚に舌鼓をうっていますせんか？ 私は今年こそは鰯を釣りたい……。

今年度最後の「朱鷺っと第78号」をお届けします。皆様のご協力を賜りながら無事に年3回、発刊することが出来ました。この場をお借りし、心より感謝申し上げますと共に、引き続き新潟地区会へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

T・S

新潟地区会事務局  
NHOさいがた医療センター  
臨床検査科内  
TEL:025-534-3131  
(内線2202)